

## は し が き

この研究報告は、当教育センターの科学教育課所員と理科長期研修員が平成3年度に取り組んだ研究の一端をまとめたものであります。

平成4年度から小学校では新学習指導要領による教育課程が全面実施されます。今回の改訂では、理科の指導においては直接経験を重視し、問題解決の能力を育てることや、科学的な見方や考え方を養うことなど、これまでの理科教育で大切にしてきたことを一層重視するよう求めています。

理科は自然を対象に学習する教科です。自然を対象にして問題解決が成立するとは、子供が対象に働きかけ、対象から子供自身が学びとるということであり、学ぶ主体は子供でなければなりません。このような学習の成立には、子供が教材とどのようにかかわるかが重要になってきます。子供が楽しく学べる教材、接する中で子供が問題を持てるような教材でなければなりません。

どのような教材を準備するかは、ひとえに教師の手に委ねられております。したがって子供に学習が成立するかどうかは、教師が子供と教材との関わりを見通した上で教材を選択するかどうかにかかっているとと言えます。そして、ここにこそ教師の役割があるものと考えます。

当教育センターでは、これまで、子供と教材のかかわりを深める指導のあり方や身近な素材の教材化に取り組んでまいりました。今年度も、以上の点に留意して研究を進め、その成果をまとめてみました。しかし、これらの報告の中には、研究の緒に就いたばかりのものもありますので、率直な御指導とご批判をお願いいたします。

最後に、これらの研究にあたり、授業研究の機会を与えてくださいました当校の校長先生はじめ、ご助言くださいました諸先生方に、厚くお礼申し上げます。

平成4年3月

新潟県立教育センター所長

海 藤 是 夫